

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	予算特別委員会 産業建設分科会	会議場所 第2委員会室	
		担当職員 佐藤	
日 時	令和2年3月10日(火曜日)	開 議	午前 10 時 20 分
		閉 議	午後 4 時 49 分
出席委員	◎菱田、○赤坂、田中、小川、奥野、藤本、竹田		
出席理事者	【産業観光部】吉村部長 [商工観光課]三宅課長、栗林観光担当課長、坂田商工振興係長 [光秀大河推進課]松本課長 [農林振興課]笹原課長、平井食農交流係長 [農地整備課]並河課長 [農業委員会事務局]吉田事務局長、浅田次長 【まちづくり推進部】並河部長、関事業担当部長 [都市計画課]関口課長、山下景観係長 [都市整備課]山内課長、信部区画整理担当課長 [まちづくり交通課]伊豆田課長 [桂川・道路整備課]澤田課長、石田整備担当課長 [土木管理課]藤本課長、鈴木管理担当課長 [建築住宅課]内藤課長		
出席事務局	佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

1 0 : 2 0

1 開議

(菱田分科会委員長あいさつ)

2 事務局日程説明

(事務局説明)

3 付託議案審査(説明～質疑、市長質疑項目の抽出検討)

[産業観光部入室]

・産業観光部長あいさつ

(基本方針等)

産業観光部が所管する、令和2年度当初予算の重点項目について、御説明申し上げます。景気については、昨年10月から実施された消費税の増税が、地域経済への打撃とならないように、プレミアム商品券事業やキャッシュレス決済の普及促進等により、景気の下支えを図ってきたところであるが、昨年末に出現した新型コロナウイルスにより、地域経済への影響が日増しに拡大、深刻化してきており、国などによる緊急の経済対策が、必要とする事業者などに確実に届くよう、地域の経済対策などと連携し、関係情報の収集、発信、相談体制の構築などに努めているところである。

そのような中、産業観光部では、所管するそれぞれの事務事業が地域の活性化、ひいては地域内消費の拡大につながるよう、費用対効果を精査する中で、新規施策や継続事業の充実などにより、各種施策を精力的に展開してまいりたいと考えている。

まず、就労対策については、人口減少社会の進展による労働力不足が進む中、ミスマ

ッチの解消を目指して、引き続き就労支援、雇用対策に取り組んでいく。

商工関係については、市内立地の事業所や商工業者の活力を一層喚起し、地域のにぎわいを創出することとして、地域経済の活性化に向け、魅力ある商店街づくりを支援するため、亀岡市商業活性化推進計画に基づき、引き続き特色を生かした商店街等の支援、助成に取り組んでいく。

また、ものづくり産業振興ビジョンに掲げる諸施策を推進し、既存企業の支援や企業誘致の促進をはじめ、市内企業の安定的な経営を支援するものづくり産業経営安定化支援助成金制度等の活用により、さらなる商工業振興施策を展開する。

観光振興については、亀岡市観光協会や森の京都DMO、その他関係団体と連携し、観光入込客500万人を実現するため、交流人口、関係人口の拡大により、地域経済の活性化とにぎわいの創出に努めていく。

主な施策としては、亀岡市観光協会や森の京都DMOとの連携を強化し、市内観光コンテンツのブラッシュアップや国内外へのプロモーション活動をはじめ、光秀まつりや保津川市民花火大会、削ろう会森の京都大会など、シティプロモーションにつながる魅力的なイベントを開催していく。

また、保津川下りや嵯峨野トロッコ列車、湯の花温泉、サンガスタジアムを中心に、観光コンテンツのネットワーク化により、地域内における周遊性を高め、観光入込客の拡大を図る。

さらには、「麒麟がくる」京都大河ドラマ館への集客をフックとして、サンガスタジアムのあるまちや明智光秀公ゆかりのまちの定着による持続性、安定性の高い観光振興を進めていく。

なお、昨年9月の決算特別委員会において、事務事業評価をいただいた商工業振興対策経費、観光推進経費については、評価結果を踏まえ、引き続き関係団体との連携強化を図りながら、さらなる可視化を進めるとともに、効果的な取り組みを行っていく。農林関係については、国の政策転換や担い手の高齢化が進む中、第三次亀岡市元気農業プランに対応した農林振興と活力ある農村地域の創造に向け、都市住民との交流事業の充実や多様な担い手の育成、国営緊急農地再編整備事業亀岡中部地区事業の着実な推進により、農地の多面的利用、さらにはもうかる農業の実現に向け、取り組んでまいりたいと考えている。

主な施策としては、農業の経営安定、担い手育成、環境の保全と農業・農村の多面的機能の維持、また都市農村交流と地域活性化や地産地消と食農学習の推進を図る。

農業用ため池については、近年多発している気候変動に伴う災害に備え、防災重点ため池を中心に、ハザードマップ等を作成し、防災意識の高揚を図りながら、農業用ため池の決壊による災害を未然防止するため、農村地域防災・減災事業などを活用し、防災重点ため池の計画的な整備改修を促進していく。

国営緊急農地再編整備事業亀岡中部地区の確実な事業進捗を図り、農産物の高付加価値化につなげるために、農業経営の規模拡大やスマート農業の推進に向けた基盤整備を進めていく。

さらには、農業委員や農地利用最適化推進員などと連携し、農地法をはじめとする関係法令の適正かつ円滑な運用を行い、京力農場プランづくりの拡大及び実質化、遊休農地、耕作放棄地の解消などにつなげてまいりたいと考えている。

また、林業関係については、治山事業、林道事業、森林整備事業はもとより、森林環境譲与税などを活用し、森林資源の整備充実を図るとともに、猟友会など関係団体と連携し、有害鳥獣対策を進め、森林の多面的機能を維持・増進するための施策を実施していく。

10 : 30

・第1号議案 令和2度亀岡市一般会計予算（産業観光部所管分）

[説明]

- ・担当課長順次説明（歳出・歳入一括）

11 : 55

<休憩 11 : 55～13 : 00>

[質疑]

<菱田委員長>

労働諸費について、個別相談会の開催等を組んでいただいているが、今、就職氷河期の方の就職対応ということで、全国的にいろいろな手だてをされている。亀岡市で実施している手だてはあるのか。

<商工観光課長>

相談会については、一步踏み出しにくい方を対象に、相談業務を行っている。講師には、ジョブパークやサポートステーションの方にお世話になっている。サポートステーションについては、基本的にはひきこもりの方を対象にしているが、御指摘の就職氷河期の方も対応している。それに特化して、例えば亀岡市が職員募集をするとか、全国的に各自治体で、そういった採用もあるが、今のところ、亀岡市の職員採用の中でのそういう枠はない。

<小川委員>

3ページの農業振興費で、食と農の情報発信事業「やおやおや」の説明があったが、もう少し具体的に、どのような発想で誰がつくって、どのように運営していくのか。

<農林振興課長>

霧の芸術祭の中で、新鮮野菜や有機野菜などを「やおやおや」という移動式キッチン付き屋台で出店している。農家の方がされているが、各地域の直売所でも、年に何回かイベントをされている。いろいろな野菜の売り方や野菜の魅力を発信してもらおうと、芸術的なことを踏まえてやっている。「やおやおや」の屋台の製作費用などを発信事業として計上しているところである。

<小川委員>

屋台は2台必要なのか。

<農林振興課長>

日によっては、イベントが重なることもあるので、2台計上させていただいている。

<小川委員>

運営スタッフは、固定されているのか。

<農林振興課長>

「やおやおや」は、農作物をつくっている若者などが運営しているが、日によって人数は変わってくる。

<藤本委員>

4ページ、農業担い手づくり育成事業経費について、担い手専任マネージャーは1名か。

<農林振興課長>

1名の方の賃金である。

<藤本委員>

農業次世代人材投資資金について、何人分を予定しているのか。

<農林振興課長>

今回計上させていただいているのは、35名である。そのうち、2名は令和2年度から事業をしていく。

<田中委員>

3ページ、京野菜ランド拡大・強化事業について、直売所の何箇所分か。

<農林振興課長>

1カ所分を計上させていただいている。この事業は、京都府の補助金を活用しながら、ハード事業として、設備の整備をする予定である。

<田中委員>

丹波くり生産振興事業について、今、どれぐらいの栽培面積があるのか。

<農林振興課長>

今、栽培面積についての資料は持ち合わせていないが、植えられている本数は、約2,500本である。JA京都丹波くり部会亀岡支部で、72名の会員がいる。

<田中委員>

4ページ、安全・安心の農産物栽培支援事業経費について、さくら有機限定なのか。

<農林振興課長>

主にさくら有機ということで説明しているが、ほかには鶏ふんや地元で堆肥をつくられている分についても支援させていただいている。

<田中委員>

従来と変わらないのか。

<農林振興課長>

そのとおりである。

<奥野委員>

4ページ、農業担い手づくり育成事業経費の中の、集落営農育成強化助成事業について、具体的にどのような事業を行っているのか。

<農林振興課長>

この事業については、主に地域の農家組合が、法人格など地域の組織をつくっていくときに、話し合いなどのいろいろな場を持たれる。その組織づくりに取り組まれた際の資料作成などの費用を支援させてもらうことになる。今、10組織を支援している。

<奥野委員>

組織をつくった後の援助なのか、組織をつくるための援助なのか。

<農林振興課長>

組織ができたときに、報償金を出すことになる。

<奥野委員>

組織ができるまでは各営農単位でやられて、組織ができれば支援してもらえるのか。

<農林振興課長>

結果的にはそういう形になるが、話し合いの中でも、京都府の農業会議などの相談窓口を活用していただくよう紹介させてもらっている。

<奥野委員>

地域営農担い手条件整備事業経費について、京都府の補助金などを地域や農家の方に周知・広報しているのか。

<農林振興課長>

地域から取り組みや機械の購入などについて計画をお聞きし、京都府とともに補助金などについて説明をさせていただいている。また、農家の皆さんに亀岡地域水田農業手引きをお渡ししている。

<菱田委員長>

地域営農担い手条件整備事業経費の中で、補助金の支出先はすでに確定しているのか。

<農林振興課長>

京の地域特産物応援事業については、コンバインや播種機で並河農家組合と法人河原林が利用している。京の米生産イノベーション事業については、田植機とコンバインで、南条ファームが利用している。また、コンバインで鹿谷農家組合が利用している。集落営農農地集積支援事業については、ごみの貯蔵施設で、西別院町の神地農家組合が計画している。強い農業・担い手づくり総合支援交付金については、田植機、ハロー、乾燥機で、5人の認定農業者が利用している。また、小豆の乾燥施設で、江島里農家組合、コンバインで、鎌倉農家組合が利用している。集落営農後継者育成事業については、佐伯農家組合で利用いただく計画である。集落営農法人経営力強化事業については、神地農家組合で集積の計画をされている。スマート農林水産業実装チャレンジ事業については、ドローンは天川管理組合、リモコン草刈り機は、個人農家である。集落・企業連携支援事業については、農業倉庫で、法人吉田である。集落ビジネス支援事業については、直売所の建設費用で、佐伯農家組合である。

<小川委員>

西部地区にカントリーがなくなって、国道9号を超えて遠いところまで運んでいると聞いたが、このような乾燥の設備もこの中で賄えるのか。

<農林振興課長>

規模によるが、大規模になると国庫補助金等になる。西部地区にあったような、JA直営のところは、把握していない。

<藤本委員>

7ページ、畜産振興関係経費の亀岡牛安定供給体制推進事業助成金について、生産供給体制は、ふるさと納税の返礼品を含めて、足りているのか。

<農林振興課長>

この事業については、屠畜場の屠畜をされた頭数によって、1頭当たり4,000円の補助金を出している。ふるさと納税の返礼品を含めてということだが、数量的なところは把握できていない。今、6軒の畜産農家が、亀岡牛として飼育されていて、順次、供給をお世話になっている。

<藤本委員>

8ページ、国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」促進費について、「筆」はどれくらいあるのか。

<農地整備課長>

全部で、422筆である。

<藤本委員>

所有者不明の場合はどうなるのか。

<農地整備課長>

ほとんどが個人名義で残っているので、個人さんから、市に寄附をいただく形で、登記の費用として委託料をここに上げさせていただいている。

<赤坂副委員長>

4目の担い手育成総合支援対策費について、そもそも、担い手の育成を本当にしようと思っているのか。毎年、ある程度同じ金額が計上されている。どんどん高齢化して、農業は衰退していくので、もっと入りやすいように、プロをほかから呼んできて、いろいろ活用できるように、経費を上げて、育成することはできないのか。

<農林振興課長>

担い手育成総合支援対策費については、京都府の事業なども含めて活用をさせていただいている。担い手がうまく育っていけるような補助ということで、新規就農者に認定農業者が1年、2年ついていただいて教えを被ってもらい、自立をしてもらうような形をとっている。そこでは、地域の認定農業者や京都府農業改良普及センターも一緒になり指導を行っていただいている。

<赤坂副委員長>

頑張られていることは、重々承知であるが、野菜や米などの商品が少ないと聞く。魅力あるまちづくりのために、農業にもっとお金をかけるべきである。もっと改善していかないと、担い手は育たないと思うがどうか。

<農林振興課長>

市内で多いのは水稻だが、今、新規就農者は、ほとんど野菜づくりをされている。例を言うと、滋賀県で修行をされていた人が、亀岡へ帰ってこられて、イチゴのビニールハウス栽培をやられている。副委員長が言われるように、今、市内の農家は高齢化になっていて、今まで野菜づくりをして、たわわ等の直売所に持っていっておられた方が減ってきている。それらを補うためにも、新規就農者に入ってもらい、亀岡の農業を支えていただけるような形に進んでいければと考えている。

<産業観光部長>

御指摘のとおり、担い手の育成が、今日の農業の一番の課題であると思う。野菜や花などをつくって、もうかる農業をしてもらわないと、手間と収入が見合わず、なかなか参入できない。こういった支援事業を通して、成功例を多く積み上げていって、手間をかけてやればもうけることができるということを、知ってもらわないと、幾らこっち側で旗振りをして、なかなか新規参入が起これないと思う。こういったものを総合的に展開していきながら、1人でも多くの成功例を積み重ねていき、参入を促していきたいと思っている。

<田中委員>

4ページ、地域営農担い手条件整備事業経費の中で、佐伯農家組合と言っていたが、樟田野町では、下佐伯と上佐伯の農家組合に分かれているのではないのか。

<農林振興課長>

下佐伯と上佐伯を含めた佐伯農家組合というのがある。

<田中委員>

6ページ、農地中間管理事業推進経費の機構集積協力金について、中間管理機構を通じて何ヘクタール処理されているのか。

<農林振興課長>

今回、計画しているのは、30ヘクタールでの集積である。実績は、約32ヘクタールである。

<田中委員>

実績の32ヘクタールというのは、今までのトータルの分で、今年は30ヘクタール実施するということか。

<農林振興課長>

そのとおりである。今、亀岡中部地区で大分、ほ場整備が進んできているので、中間管理機構を活用する中で、新たに農業の担い手に営農をしてもらうように計画を進められればと思っている。

<田中委員>

関連して、篠町のほうで、府が直接、中間管理機構を使って実施していたものは、めどがついたのか。

<農林振興課長>

今、地元で、京力農場プランの作成等を頑張らせていただいている。

<田中委員>

9ページ、農村地域防災減災事業費の説明の中で、6期地区と3期地区と言っていたが、具体的な町名は。

<農地整備課長>

6期地区は、宮前町、3期地区は、蕨田野町と宮前町である。

<藤本委員>

10ページ、林業事務経費の緑の少年団育成事業補助金について、亀岡に緑の少年団という組織はあるのか。

<農林振興課長>

緑の少年団は、連絡協議会ということで、ボーイスカウトに担っていただいている。

<藤本委員>

正式には、緑の少年団への育成補助ではなく、ボーイスカウトに渡しているということか。

<農林振興課長>

募金活動や公園清掃活動などの実績を踏まえて支出している。

<菱田委員長>

ボーイスカウト、ガールスカウトに活動いただいているが、活動内容は緑の少年団の活動をいただいていることに対して補助を出しているということか。

<農林振興課長>

そのとおりである。

<藤本委員>

11ページ、鳥獣対策事業経費について、先週、丹波篠山城に行ったところ、シカカレーやイノシシカレーなどいろいろと特産品が売られていて、非常に好評だったので、亀岡でも特産品にできないのか。それは民間任せなのか。

<農林振興課長>

実際、亀岡の中でもシカ肉などの加工品を扱っておられる民間業者はある。仮に、民間業者から「そのような施設をつくりたい」というような計画があれば、京都府とも共有しながら、御相談させていただくことになると思う。

<奥野委員>

5ページ、中山間地域等直接支払交付金事業費補助金について、5町17集落ということだが、どのような事業に補助金を出しているのか。

<農林振興課長>

5町については、地域指定をしていて、東・西別院町、畑野町、宮前町の一部、保津町の一部である。田んぼの傾斜が、何度以上あれば、補助金対象としている。中山間地域なので、農家の方が高齢になってくると、どうしても人手が足りなくなったり、耕作放棄地が増えていくような状況になるので、直接支払で補助金を出している。その補助金を農地の保全活動や草刈り、機械の導入などに活用いただいて、

中山間地域の農地の保全をお世話になっている。

<奥野委員>

具体的にどのような事業に補助金を出しているのか。

<農林振興課長>

草刈りや水路の清掃などに必要な道具や作付けの機械の購入費用などを補助している。反当たりの単価を設定して、その地域の面積に応じて交付金を出している。

<奥野委員>

12ページ、森林活用推進事業経費の亀岡市林業センター修繕工事について、具体的にどのような修繕をするのか。

<農林振興課長>

亀岡市林業センター自体が昭和63年に設置されていて、30年が経過している。経年劣化により、多くの亀裂が生じてきているため、雨漏りが懸念されることから、屋根の修繕経費として計上させていただいている。

<小川委員>

同じページの森林経営管理意向調査業務委託料について、委託先と調査対象地域は。

<農林振興課長>

委託先については、京都府森林組合連合会の中に、森林経営管理サポートセンターが設立されようとしているため、そのサポートセンターを利用しようと考えている。また、調査対象地域については、森林経営管理制度に基づき、10ヘクタールを設定し、その森林の所有者に、境界等を確認する中で、「今後、どういう管理をしていくのか」「市などの行政に管理を任せるのか」などの意向調査を今年度行っていると考えている。

<小川委員>

具体的にどこの地域を考えているのか。

<農林振興課長>

森林組合と相談し、地域の選定を進めているところである。

<赤坂副委員長>

12ページ、森林活用推進事業経費の森林全般について、間伐などいろいろなことをやっているのはわかるが、どこがどうなっているのかがわからない。例えば、ここまでやったとか、こういうふうに進んでいるとか、こういうふうに行っていくとか、見てわかるものはないのか。

<農林振興課長>

作業に入っているが、地域もばらばらでまとまった形にはなっていないので、一目で作業したことがわかるようにはなっていない。亀岡の中でも、森林整備計画を立てて、年次計画的に現地に入って、作業を進めている地域もある。また、今年から、森林経営管理制度が動いていくので、順次、森林整備が進んでいくと考えているところである。

<赤坂副委員長>

台風や大雨が続いて、倒れた木がいまだに放置されている状態が無限にある。毎年このように予算を出すのなら、事業計画を立てて、できるだけ早く、次の災害を防げるような状態にもっていかなければならないと思うがどうか。

<農林振興課長>

計画的に進めていくことが大切だと思うので、先ほどの森林経営管理意向調査などをうまく使いながら、所有者にご協力をいただきたいと思います。

<藤本委員>

13ページ、商工業振興対策経費の企業立地等奨励金について、先ほどの説明で、9社で固定資産税相当額の免除と、市内雇用1人10万円ということだが、その9社はどこで、どのくらい支払っているのか。また、新たな申請は出ているのか。また、1人10万円は月払いなのか、年払いなのか。

<商工観光課長>

来年度の企業立地奨励金については、全部で10社想定している。その中で、企業立地奨励金に該当する事業所が8社で、雇用の部分での奨励金に該当するのが3社である。1社は重複しているが、令和2年度の対象事業所として、交付のほうを進めている。また、新たに、先日の企業立地の審査会に案件が2件出ている、小城製薬と宝田工業であるが、今後、審議・検討し対象としていく予定である。

<菱田委員長>

説明いただくと時間がかかりそうなので、算定根拠の一覧表を出してもらうように要望しておく。

<田中委員>

13ページ、商工業振興対策経費のかめおか元気商店街等支援事業経費とあるが、元気な商店街はあるのか。

<商工観光課長>

基本的には商店街に対する雇用施策として実施している。商店街等になっているのは、各地域の商店街等の上の組織である商店街連盟や商業組合も対象にしている関係で、「等」という表現を使っている。

<田中委員>

多分補助金の関係でそういう名称を使っていると思うが、実際に亀岡で元気な商店街はどこなのか。

<商工観光課長>

全国的に商店街は、大分冷え込んでいるというのが現状である。亀岡市としても、少しでもいろいろなそういうカンフル剤ではないが、何かしら事業をして、1人でも多くの方に参加していただく中で、商店街を知ってもらい、個店を利用してもらう、それがまた利益に少しでもつながるような、とっかかり事業としてイベントを活用して、集客につなげているところである。元気な商店街がどこかという話になると、多分なかなか亀岡にはないかと理解しているところである。

<産業観光部長>

商店街は市内で連合会や組合などを合わせて20数商店街があり、その内、昨年、8商店街でこの補助事業を活用いただいている。その8つは元気な商店街というような位置づけでやらせていただいている。

<菱田委員長>

この事業は、亀岡商工会議所に補助金を出してということであるが、一定審査なども亀岡商工会議所に任せていくことになるのか。

<商工観光課長>

従前は、亀岡商工会議所に所属している支援員が、各商店街とやりとりをした上で、相談も受けながら、いろいろな事業を実施してきた。前回の事務事業評価の中で、「地域商店街とのさらなる連携を図り、活性化、にぎわいの創出に向けた一層の努力をされたい」と評価いただいたことも受け、来年度からこの事業実施については、基本的にはその支援員と商店街がいろいろと協議され、事業計画をつくっていく。それに対して、市や府、その他関係機関が、プレゼン方式で、その事業を精査させていただく中で、補助金の対象にしていくことになる。ただ、いろいろなところか

らの意見や助言を反映させて、より魅力的な事業として成立するように、努めて取り組んでいきたいと思っている。

<藤本委員>

13ページ、金融対策経費について、先ほど説明の中で、中小企業の経営安定化を図るため、保証料助成・利子補給を行うということだが、対象はどのぐらい想定しているのか。また、現在、申請は出ているのか。

<商工観光課長>

実績に基づく平均的な予算を計上させていただいている。例年、保証料については、100件余り、利子補給については、140～150件ぐらいである。ただ、近年、低金利の関係で、対象者が減る傾向にある。

現在、新型コロナウイルスの関係で、国の融資、セーフティーネット4号が発効されたり、府の融資のほうも、設置されたところである。それらの利用者が今後、どれだけ見込めるか、今は、はっきりわからないが、こういったところに対しても、市の補助を極力活用していただきたいと思っている。今、民間で無利子無担保の融資を設けるといふ話も出ているので、対象になるものについては、極力、拾い上げて取り組んでいきたいと思っている。

<奥野委員>

14ページ、旧大谷鉱山について、いつから始まって、いつまで必要なのか。

<商工観光課長>

大谷鉱山はもともと民間事業者が開発して、当時は国の許可を得て事業実施していた中で、昭和46年にカドミウム汚染が発覚した。その後、昭和58年に鉱山自体は閉山されたが、昭和59年から各自治体が鉱山の管理をすることとなり、亀岡市でも管理が始まった。ほとんどは国からの補助金で実施している。現在も、定期的に水質検査をしているが、基本的には基準値以下の数値である。ただ、少し雨がひどいときは、若干基準値を超えるときがあるため、当面はまだまだ管理、対応が必要であると考えている。国の見解は、各市町村に任せるということになっているため、最終的には市が判断していかなければならない。今のところ、基準値を超えるときもあるので、一定、もう少し対応していかなければならないと感じている。

<田中委員>

15ページ、観光推進経費の城下町での町屋を活かしたにぎわい創出観光拠点事業補助経費について、何町のことか。また、具体的にどのような事業をするのか。

<商工観光課観光担当課長>

場所は、本町であり、亀岡市観光協会への補助金である。まち歩きや観光案内所での販売などの補助になっている。

<田中委員>

令和元年度と平成30年度に、観光案内所は、どのぐらいの方が利用されているのか。

<商工観光課長>

今、手元に平成30年度の資料しかないが、相談件数について、JR亀岡駅は、2万2,076件、トロッコ亀岡駅は、2万8,723件、城下町は、2,792件である。これは、日本人と外国人の観光客を全て足した数字である。

<藤本委員>

16ページ、「麒麟がくる」推進事業経費について、新型コロナウイルスで、大河ドラマ館のキャンセルが相次いでいるが、年間50万人、60万人を呼び込もうとすると、平均月5万人ぐらいは呼ばなければならぬが、何か対策を考えているの

か。

<光秀大河推進課長>

福知山市のミュージアムも明日から27日まで休館をすると発表された。大津市での光秀資料展も延期になっている。

三大観光である保津川下りとトロッコ列車が動いたときに、亀岡は非常に誘客に強いと言われていたが、トロッコ列車の観光客も半分になっており、団体は全てキャンセルになっている。今、大河ドラマ館を休館しても、人件費などは止められないので、何とか感染者を出さないように、対策を強化しながらやっている。前回のSARSのときもそうだったが、結構我慢をしてやると、その後、V字回復も期待できるので、何とかこの状況を乗り切って、誘客に備えて準備を進めていきたいと考えている。今は来ていただくような状況ではないので、状況を見ながら、準備を進めていきたいと思っている。

<田中委員>

16ページ、鉱泉管理経費の湯の花温泉施設整備事業委託料について、整備内容は。また、温泉スタンドは売れているのか。

<商工観光課観光担当課長>

整備内容は、プラントのタンクの清掃、配管の清浄、ポンプの交換、オーバーホールなどの業務委託である。

温泉スタンドについては、資料を持ち合わせていないので、後ほど回答させていただく。

<小川委員>

15ページ、観光推進経費の蘇州市観光PR経費と観光協定推進事業補助金があり、協定を結んでPRしていくと思うが、具体的にどのように進めていくのか。

<商工観光課観光担当課長>

6月23日、24日、25日に蘇州市であるドラゴンボートのイベントに参加予定である。亀岡市の観光プロモーションと保津川下りの船頭さんによるドラゴンボートへの参加を予定しているが、今のこの情勢なので参加できないかもしれない。

<小川委員>

技と職の発信力強化事業業務委託料について、具体的な内容は。

<商工観光課観光担当課長>

いろいろなイベント運営と森のステーションかめおか館内自体の運営にかかる費用である。

<小川委員>

将来的には独立してやっていくと聞いていたがどうなのか。

<商工観光課長>

委託料については、令和2年度を3年目として最終とする。以降については、協議の上、自走いただく形で進めていきたいと考えている。

それと、先ほどの蘇州市の関係については、新型コロナウイルスで実施できるか、できないか、今の時点ではっきり申し上げることにはできないが、うまくコロナが収束すれば、絶好の好機だと考えている。旅行者を集めて、プレゼンさせて、旅行者の持つノウハウを使って、亀岡市のPRをしていきたいと考えていて、実施できれば大きな効果があると思っている。

<小川委員>

16ページ、観光地環境施設整備経費の観光地案内板等設置事業委託料について、どこに看板を設置するのか。

<商工観光課観光担当課長>

基本的には明智光秀ゆかりの神社仏閣や観光地のポイントに合わせて設置しようと考えている。具体的には、出雲大神宮や鍬山神社、谷性寺、亀山城である。

<小川委員>

関連して、車塚古墳の看板がぼろぼろになっているが、修繕できないのか。

<商工観光課観光担当課長>

一度検討する。

<赤坂副委員長>

13ページ、商工業振興対策経費の亀岡商工会議所への補助金額が、毎年ほとんど同じである。商工業の改善や発展のために、市役所ができないことを亀岡商工会議所が担っているのはわかるが、いろいろなセミナーや国際会議にもう少し若者が入っていくべきだと考える。市役所はいつでも相談できるような体制を整えなければならぬと思う。そのためには、もう少し人員をふやさなければならないし、もっと改善していくべきだと思うがどうか。

<商工観光課長>

亀岡商工会議所の主な事業としては、経営改善普及事業、商業者の経営相談を受けるといふ伴走型の支援事業が主だと思っている。その事業について、今、京都府が、年間4,500～4,600万円ほどの補助金を出している。市でも、府が出している補助金の2分の1を一定の目安にして出すようにと言われている。私どもが出している補助金の大半は、経営改善普及事業に充てるための経費として、捻出をさせていただいている。

亀岡商工会議所の職員体制は、支援員が6人いるが、時間外労働も含めて、大変だと聞いている。職員を募集しているが、確保が困難で、なかなか全部回り切れていない。大変さは聞いているが、補助金的には、そういった活動支援をさせていただいている。金額が上がらないということは、財政協議の中で、なかなか進まないところもある。

<赤坂副委員長>

地域経済活性化対策経費の亀山城下ひなまつりについて、改善されたのか。

<商工観光課長>

今年度実施分については、3月1日から8日までをひなまつり期間として実施した。ただ、新型コロナウイルスの関係で催し等は全て中止し、展示してあるおひなさんを見てもらって、回るだけというような形で開催させていただいた。前回の事務事業評価の中でも、御指摘等いただいていた中で、周辺地域にも、声かけをさせていただいたりはしていたが、今回は見送りを受けたところもある。ただ、大丹波という大きなくくりの中で、亀岡だけではなく、篠山や榛原でひなまつり事業をされているので、連携を図って、お客さんが相互間に移動できるような発信の仕方で、誘客等には努めているところである。

<赤坂副委員長>

15ページ、観光推進経費の城下町まち歩き誘客業務委託料について、どれだけ人が来られているのか。

<商工観光課観光担当課長>

令和元年7月20日から12月8日で2,596名、その内、クリアした方が1,396名である。

<赤坂副委員長>

観光おもてなし事業委託料は、前年から金額が上がっているがなぜか。

<商工観光課観光担当課長>

基本は、亀岡市観光協会への委託料だが、イベントへの準備や設営、人件費の部分で作業がふえているため金額が上がっている。

<赤坂副委員長>

亀岡光秀まつり事業補助経費について、今、コロナで6月ぐらいまでは危ないと言われているが、主催者と意思疎通できているのか。

<商工観光課長>

現在、国のほうで、その対策に係る特別措置法の検討がなされていて、近々、措置法が施行されて、おりてくると思う。そういったことも念頭に置いて、対策を考える中で、実施できるかどうかの判断をしていく予定である。

<赤坂副委員長>

16ページ、「麒麟がくる」推進事業経費について、かめおか観光PR大使に協力してもらうことはできないのか。

<光秀大河推進課長>

PR大使については、特に、細川珠生さんにもPR大使になっていただいて、私の祖先ということで本も出されている。また、秋本治さんに来ていただく予定だったがコロナで中止となった。ただ原画をいただいているので、大河ドラマ館の入り口ロビーのところで展示をさせてもらおう。特に「ファインダー京都女学院物語」とコラボしながらやっていきたいと考えている。

<赤坂副委員長>

「麒麟がくる」推進事業経費の財源、その他で約6,500万円は何なのか。

<光秀大河推進課長>

ふるさと納税の基金を繰り入れている。

<赤坂副委員長>

湯の花温泉のお湯が漏れているという話はどうなったのか。

<商工観光課観光担当課長>

一通り全部の旅館に聞き取りをし、プラントと旅館・ホテルの間をチェックした。プラントと旅館までの間は問題ないが、あるホテルでは漏れていた。今は改善されている。

<赤坂副委員長>

湯の花温泉観光振興事業補助金について、他の温泉街に行くとポスターがたくさん貼ってあるが、そういうのを湯の花温泉街にしようと考えていないのか。

<商工観光課観光担当課長>

基本的にどういう形で広報活動を行うかどうかは、組合に任せている。昨年度は新しいPR活動もされているので、私どももそれに協力していきたいと思っている。

<赤坂副委員長>

今回のコロナで、1億円ぐらいの赤字が出たと聞いているので、余計に市としても、手助けをしてもらいたい。

<商工観光課観光担当課長>

先ほどの温泉スタンドの件について、平成30年で、売り上げが2万4,000円、240リットルである。今年は大体260リットル前後で、2万6,000円の売り上げとなる予想である。

<田中委員>

質疑ではないが、コロナのことで、要望だけ言わせてもらいたい。大河ドラマ館や保津川下り、湯の花温泉も含めてかなりの損害が出てきていると思うが、商工観光

課で市内の企業や亀岡商工会議所等も含めて聞いていただいて、現時点での取りまとめを行い、府や国に対して、強く要望していただきたい。

14 : 33

[市長質疑項目の抽出検討]

<菱田委員長>

これから市長質疑項目の抽出検討を行う。ただいま担当部からの説明を受けたが、市長質疑項目抽出に当たってはなお疑義があるもの、掘り下げ審査すべきもの、議案の賛否に影響するもの、また審査中に質疑を行ったものを基本として抽出する。それでは市長質疑項目として抽出すべき項目があれば、その項目が掲載されている資料のページ数及び論点を明確にして発言願う。

<田中委員>

4ページの地域営農担い手条件整備事業について、亀岡は大きな穀倉地帯でもあり、家族営農を多くの農家がやっていると思う。農業を振興させていくためにも、その辺の振興をどう図っていくかが大事だと思うので、基本的なことを一度聞きたい。13ページの商工業振興対策経費について、ここに書かれている主な経費が亀岡商工会議所への補助金で、そこから商店街などに行くことになるが、先ほどの課長の説明で元気な商店街がなかなかないということだった。やはりそこをどう元気にしていくのかという処方箋を聞きたい。

10ページの林業費について、森林組合などへの助成や幾つかの事業をやっているが、今、もうかる林業はほとんどない。手をかけたらかけるだけマイナスになるというような状況だと思う。やはり、どのようにして山を元気にしていくのかということがなければ、昨今の災害の関係等で被害が大きくなるだけだと思う。少し里山を手入れするだけでは、もう不十分だと思うので、亀岡市の林業自体をどうするかということを知りたい。

<赤坂副委員長>

大河ドラマ館にしっかり力を入れてもらうことによって、市内の飲食店も潤うことになるので、今年1年で、しっかりと目標に達する来場者を呼んでほしい。

<菱田委員長>

当分科会では、この後のまちづくり推進部、上下水道部の審査もあるため、そこから抽出する可能性もある。今、提案された4点を一旦ピックアップしておいて、その後、一定整理をさせていただきたいと思う。

[産業観光部退室]

14 : 40

<休憩 14 : 40～15 : 00>

[まちづくり推進部入室]

・まちづくり推進部長あいさつ

(基本方針等)

令和2年度当初予算案に計上している、当部にかかわる重点的な施策、また、昨年3月議会以降にいただいた指摘要望事項及び事務事業評価の反映状況について、説明を

申し上げる。

まず、重点施策について、今年度からの新規事業や充実させた事業を中心に、主なものを説明させていただく。

まず、1点目に活力あるにぎわいのまちづくりに係る経費として、新規事業では、桜の名所七谷川周辺整備事業、また、充実する事業として、亀岡の未来を照らす希望のスタジアム関連事業で、亀岡駅北広場でのかめおかe c oマルシェや、イベントの開催のための経費を計上している。

次に、快適な生活を支えるまちづくりに係る経費として、安心・安全で快適な道づくり事業として、道路網の整備や地域課題への対応、通学路の安全対策などの道路整備に努めてまいりたいと考えている。

また、継続事業ではあるが、JR千代川駅バリアフリー事業として、今年度、東西自由通路の整備に向けた新たな取り組みに係る必要経費を計上している。

それから、自然災害から市民を守る河川災害防止対策事業として、21河川において、今年度緊急的かつ集中的に、土砂浚渫や護岸改修等を行う経費を計上している。さらに、引き続き、木造住宅の耐震化を促進する各種助成事業に取り組んでいく。

次に、昨年3月議会以降にいただいた指摘要望事項及び事務事業評価のうち、当部に係るものが3点あったので、順次状況を報告させていただく。

まず、昨年3月議会の予算特別委員会での指摘要望事項が2点あり、そのうちの1点目、京都・亀岡保津川公園について、「速やかに事業認可変更の進め、具体的な計画を明確にされたい」という指摘要望をいただいた。これについては、昨年3月議会閉会後の3月26日に、都市計画法の規定に基づく事業計画の変更認可手続を済ませ、事業期間及び設計概要の変更を行ったところである。

事業期間については、平成31年3月31日、平成30年度末を期間としていたが、5カ年延伸して、令和6年3月31日まで延長したところである。

なお、基本的な平面計画については、当委員会でも説明させていただいてきたが、事業期間中は今も公衆の縦覧に供しているところである。また、環境保全専門家会議でも、その内容を説明し、一定理解を得て、今、事業を進めているところである。

2点目は、「亀岡駅南周辺地区のまちづくりは、亀岡駅北のにぎわいと同様に重要である。まちなみ・まちづくり構想策定業務に当たっては、駅南地区の活性化に資するよう、しっかり進められたい」ということであった。これについては、先日の当委員会で行政報告させていただき、今年度構想を策定し、現在、整備が進む駅北地区と一体となったまちづくり、にぎわい創出を図ることとしている。令和2年度以降、地域住民の意見も聞きながら、構想の実現に向け、取り組みを進めてまいりたいと考える。次に、令和元年9月の決算特別委員会で、事務事業評価として、バス交通関連経費に関して、「今後も公共交通に対する市民ニーズを的確に捉え、市民の移動手段確保のため、一層工夫されたい」との御意見をいただいた上で、「見直しの上継続」との評価をいただいた。これについては、この3月14日のJRのダイヤ改正に合わせ、ふるさとバスの別院コース、畑野コース、畑野-千代川コースで、一定区間の中でフリー乗降の制度を導入する。また、湯の花温泉の区間に新たな停留所を1カ所設置する。それから、亀岡地区のコミュニティバスの運行の一部を変更していく。これは、コミュニティバスの亀岡地区の西コースの右回りを1便だけ左回りに変更するものである。この辺を含め、地域こん談会等が出てきた地元要望を受け、取り組みを行ったものであり、取組内容については、地元自治会へ既に伝えているところである。

15 : 07

・第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計予算（まちづくり推進部所管分）

[説明]

- ・担当課長順次説明（8款土木費、3項河川費まで）

15 : 36

[質疑]

<藤本委員>

1 ページ、公衆街路灯LED化助成金について、何灯設置を予定しているのか。

<土木管理課長>

1 自治会が約30灯で、全部で720灯である。

<田中委員>

2 ページの違法駐車・放置自転車防止対策関係経費について、啓発事業を何人に委託しているのか。また、1時間当たりの単価が安すぎると思うがどうか。

<土木管理課長>

探すのに時間がかかるので、後でお答えさせていただく。

<田中委員>

バス交通関連経費について、湯の花温泉線のバス停はどこに作られるのか。

<まちづくり交通課長>

湯の花温泉駅と中湯の花温泉駅の間に芦ノ山というバス停をつくる。ちょうど、松園荘の前あたりである。

<藤本委員>

2 ページ、コミュニティバス運行業務委託料について、来年度以降の予定はどうか。まだ社会実験として、ずっと続いていくのか。

<まちづくり交通課長>

篠地区のコミュニティバスについては、平成28年2月から試験運行を開始している。試験運行を始めた平成28年度については、収益率9%、平成29年度については13%、平成30年度については17%、今年に入って、今、調査しているが、23%と利用者数、利用収益率がだんだん上がってきている。現在、公共交通網形成計画で、収益率30%を目標に取り組んでいるところである。30%になれば本格運行になるが、今のところは夕日ヶ丘団地の開発や区画整理事業の中で工場の建設も計画されているので、その辺の動向を見るという意味から、試験運行のまま継続していきたいと考えているところである。

<土木管理課長>

先ほどの、違法駐車・放置自転車防止対策関係経費の違法自転車等啓発日数は、平成30年度実績で、JR馬堀駅前が66日、JR亀岡駅前が120日、JR並河駅前が50日、JR千代川駅前が67日、合計303日である。単価については、今手元に資料がないので、正確には申し上げられないが、2人が2時間行う単価で契約しており、約1,800円だったと思う。

<田中委員>

私もJR亀岡駅前かJR千代川駅前ぐらいでしか見ないのだから、2人が朝7時ぐらいから啓発をされているのをよく見る。賃金が安過ぎると思うので、また検討をお願いする。

3 ページ、道路維持費経費について、要望だが、吉川町穴川で、京都縦貫自動車道の下に側道があるが、あの辺の白線が消えているので、できるだけ安全面から点検

していただきたい。

5 ページ、橋梁維持経費の橋梁定期点検は、どこかに委託するのか。

<土木管理課長>

京都府の技術サポートセンターに委託する。

<田中委員>

細かいことを言うが、委託なら点検委託料としておいてほしい。

<藤本委員>

4 ページ、道路新設改良事業費の城山医王谷中山線道路新設改良事業について、新設ということは、今の道を拡幅するのではなく、新たにルートをつくっていくということか。そうすると、どの辺のコースを想定しているのか。

<桂川・道路整備課整備担当課長>

出発地点は市道中矢田篠線の終点から始まり、君塚団地を通り、亀岡インターへ向かう部分の延長約2キロである。

15 : 38

・第1号議案 令和2年年度亀岡市一般会計予算（まちづくり推進部所管分）

[説明]

- ・担当課長順次説明（8款土木費、4項都市計画費から歳入まで）

16 : 08

[質疑]

<田中委員>

9 ページ、JR千代川駅バリアフリー整備事業の供用開始は。

<桂川・道路整備課整備担当課長>

西側広場のスロープについては、今年度末、駅舎の開口部の工事も現在取り組んでいただいている。また、東側については、令和2年度末を目標に、これから、スロープの工事発注や駅の開発施設の移転を進めていく予定である。

<田中委員>

13 ページ、安全なわが家の耐震化促進事業費について、耐震化率は。

<建築住宅課長>

平成30年時点の推計であるが、79.1%である。令和2年度分についても20戸であるが、広報に努めていきたいと思う。

<田中委員>

14 ページ、がけ地近接等危険住宅移転事業費補助金というのがあるが、具体的に対象物件があるのか。

<建築住宅課長>

現在のところ対象物件はない。これについても、広報に努め、移転したいという申し出があればお手伝いしていきたいと考えている。

<田中委員>

この金額では移転はできないのではないかと思うので、充実を図っていただきたいと思うがどうか。

<建築住宅課長>

この事業については、ほかの耐震関係と同様に、国や府の補助をいただいて、その制度にのっとったものであるため、移転される場合の、例えば引っ越しの補助などであり、その建物を移動させるための補助ではない。

<小川委員>

10ページ、土地区画整理関連事業費について、高野林・小林土地区画整理事業の地区外市道の交通安全施設等の整備を行っていただくが、今年度、交通量調査をしたのか。令和2年度に、もう1回調査するのか。

<都市整備課区画整理担当課長>

交通量調査については、組合と亀岡市の合同で、来年度早々に実施する予定である。

<小川委員>

14ページ、空家等対策事業経費の空家等代執行・緊急安全措置委託実施経費について、具体的な場所が決まっているのか。

<建築住宅課長>

現在、具体的にどの家を代執行しようというものはない。令和2年度中に会議を実施し、特定空き家を認定し、指導や命令等を繰り返していく中で、対応されない場合は代執行となっていく。

<藤本委員>

9ページ、京都スタジアム関連事業経費について、具体的に消費拠点の整備とは。

<まちづくり交通課長>

スタジアムが完成して、3月1日からホーム開幕戦が始まる予定であったが、新型コロナウイルスの関係で3月は試合が1回も開催されていない状況である。具体的な消費拠点の整備については、サンガのホームゲームのときに、駅北広場において、今年度9月からサンガのホームゲーム時にマルシェを開くために参加していただく市内事業者を募集している。現在29件の市内事業者の参加希望があり、かめおかe c oマルシェという組織をつくっていただいている。そのかめおかe c oマルシェにおいて、駅北の芝生広場で、サンガの試合に来ていただいた方や市民に、亀岡の特産品である京野菜や亀岡牛をアピールしてもらって、市内事業所の活性化につなげたいと考える。

スタジアムができて、駅から近いため、そのまま素通りされる可能性があるため、特産品のお店を出したり、イベントを実施することによって、サンガの試合を見に来られた方や市民に楽しんでもらえる場所にしていきたいと考える。

<藤本委員>

10ページ、馬堀停車場篠線の第2工区の完成予定は。

<桂川・道路整備課整備担当課長>

第2工区については、都市計画決定をしている事業期間として、現在は今年度で切れるが、令和6年度末までの事業延長ということで手続を進めているところである。

<奥野委員>

先ほど、京都スタジアム関連事業について説明があったが、駅北広場をつかってまちおこしをするということであるが、補助金1,400万円の根拠は。

<まちづくり交通課長>

1,400万円は、年間約20試合のサンガの試合を想定していて、その20試合に全てマルシェを開催していきたいと考えている。補助金については、人を集めるためのイベントとマルシェの開催で経費を構成している。イベントについては、コンベンションビューローを窓口として、20試合のうち、強化集中イベントの委託事業を年間約5回考えている。また、地域ふれあいイベントとして、例えば青年会議所やシンボルプロジェクトなど、地域の方々の団体でイベントをしていただく機会を5回考えている。それ以外にも、サンガの試合のときには、サンガが西京極でもフレンドパークのような、子どもたちが遊べるような工夫をされていたので、ス

スタジアムでも10回ほどそのようなイベントを開催したいと考えている。重点イベントに対して、540万円を想定している。そのほか、マルシェの開催に当たりチラシの配布や場所の賃借料などが含まれている。また、かめおかecoマルシェということで、エコを前提に進めていくために、リユース食器を使っていく。それを使いやすいような形で、最初はスタートアップということで補助をしながら進めていきたいと考える。また、ごみの処分についても、最初の3年間は補助していく形で、国の承認もいただいている。そのマルシェの分が、予定で680万円であり、コーディネーターの費用が180万円みており、合計1,400万円という構成になっている。新型コロナウイルスの関係等で実施できない可能性もあるが、最終的には決算書で報告していきたいと思う。

<奥野委員>

最初の3年間のごみ処理代を補助した後はどうなるのか。

<まちづくり交通課長>

3年間は、スタジアムで試合のある日はこういうイベントを開催しているということをお知らせしていくような期間として、国からまちおこしというような形の中で承認いただいている。これを使ってやっていくことによって、出店事業者も収益を上げていき、持続可能な組織にしていってもらいたいと考える。

<藤本委員>

11ページ、さくら公園の多目的トイレ整備工事について、車椅子の方でも利用できるようになるのか。

<都市整備課長>

現在、さくら公園体育館の1階部分には、車椅子の方が使える多目的トイレがあるが、2階やグラウンドからは、段差があってスロープがないことから、使っていたことが難しいため、施設の従業員に車椅子を持って、階段を下りていただいていた。今回設置するのは、2階から車椅子の方が直接行けるよう多目的トイレを設置したいと考えている。

<奥野委員>

11ページ、亀岡運動公園施設長寿命化計画ということで、メインスタンドとトラック間の工事もの中には含まれているのか。

<都市整備課長>

亀岡運動公園施設長寿命化計画は、今年度作成し、その中で優先順位をつけてやっているが、来年度分には入っていない。緊急で直す必要がある、亀岡運動公園プールのフロアと亀岡運動公園競技場の放送設備を優先して、修理していきたいと考えている。

<奥野委員>

この長寿命化計画は、長寿命化ということであるが単年度計画ではないのか。

<都市整備課長>

今年度、施設の調査をして、状況を把握した上で、10年間の計画の中でどこを更新、修繕していくかという計画を定めていきたいと考えている。

<竹田委員>

10ページ、高野林・小林土地地区画整理事業について、工期的に間に合うのか。

<都市整備課区画整理担当課長>

区画整理の事業期間が令和3年度末となっていて、令和3年度末に旧高野林区と道路が接続するまでに、その舗装工事、安全対策工事を仕上げる予定である。実際には、再来年度で舗装工事を仕上げる予定である。

<竹田委員>

調整池の管理はどうなっているのか。

<都市整備課区画整理担当課長>

まだ市道認定をしていないので、場内の調整池の周辺についても、組合管理のほうで行っていただいている。以前お話をいただいたので、組合事務局のほうに、早急に安全対策をするように伝えている。

<竹田委員>

あの状況を見ると非常に心配だと思う。もう既に道路は一部使われていて、子どもたちも近くを通っている。市としても指導するのか、またセーフコミュニティという観点から考えるようお願いしたい。そういう考え方も持って、区画整理の中で働きかけをしていただきたい。

12ページ、緑花推進経費の街路樹について、JR千代川駅西側で、歩行者が歩けば、木に当たるところがたくさんある。街路樹の剪定について、しっかりと計画的にしているのか。

<都市整備課長>

街路樹の剪定ほか管理については、亀岡市都市緑花協会と調整しながら、年間を通じて経費が決まっていて、その中で必要なところは実施しているが、どうしても高木化になっているところを先にやっちゃっているところがある。JR千代川駅西側については、亀岡市都市緑花協会と現地を確認して実施させていただきたいと思う。

<藤本委員>

12ページ、亀岡市都市緑花協会への補助金について、光秀公のまち亀岡ということで、ききょうを植えると言っていたが、どこに植えるのか。

<都市整備課長>

大河ドラマ館の前に、大きな鉢を置かせてもらい、ききょうの咲く6月からは、ききょうに植え替えたいと思っている。また、南郷公園やJR馬堀駅前、JR亀岡駅前のロータリーにもききょうを植えていきたいと考えている。また、ききょうの里についても、ききょうの成育管理について、京都府立大学の教授に指導を受けながら、植え付けを広めていき、たくさんの人に谷性寺やききょうの里、大河ドラマ館に来ていただくような事業をやりたいと考えているところある。

<赤坂副委員長>

11ページ、公園緑地管理経費について、今回から亀岡市パーク commons と亀岡市都市緑花協会が指定管理者であるが、しっかりと管理はできているのか。

<都市整備課長>

33公園については亀岡市都市緑花協会、2公園については、この3月までは三煌産業で管理を行っていただいている、両者とも月に1回調整会議を行っている。その月の計画や次の月の計画、実施した内容などについて、確認をとりながらやっている。市でも、指定管理者だけに任せるのではなくて、月に1回、35公園の点検を行い、どういう状況になっているか確認している。昨年まではできていなかったが、今年の9月から実施していて、遊具の点検やごみのポイ捨ての点検をしながら、各指定管理者と一緒に、管理をしていくようにしている。

<赤坂副委員長>

しっかり工程表のようなものを出してもらって、最低限の管理をしたほうがよいと思うので、要望しておく。

14ページ、市営大年住宅屋根等改修工事について、あそこの屋根は幾つあるのか。

また、入居戸数は。

<建築住宅課長>

A棟とB棟があり、階段を挟んでそれぞれ建物があるようになっている。その屋根と建物の外壁全ての改良を行う。入居戸数は、22戸である。

<赤坂副委員長>

全部で24戸か。

<建築住宅課長>

23戸である。24戸あるが、そのうちの1つは集会所に使っているの、全部で23戸が入居可能な部屋である。

<赤坂副委員長>

改修工事に7,300万円というのは、高いと思うがどうか。

<建築住宅課長>

市営大年住宅は古い印象をお持ちだが、市営住宅の中では、まだよい状態である。これを少しでも長持ちさせるために、長寿命化計画を立てて、悪くなってしまうまでに、屋根や外壁を直していく予定である。特にマンションタイプなので、悪くなる前に直していこうと計画している。

<赤坂副委員長>

市営住宅も何箇所かあるが、最終的には、1つにまとめて建て替えていくような考えはあるのか。

<建築住宅課長>

おっしゃるとおり、1カ所に集約してしまうのも1つの方法であるかと思うが、個々のエリアによって、求められている部分があるので、そういうことも含めて、定期的に長寿命化という部分を十分に見極めながら、必要な時期には、おっしゃるように、どこかに集約することも必要だと思う。当面は、悪くなる前に直して行って、長持ちさせていこうと進めている。

<赤坂副委員長>

建てたほうが安くつく場合もあるので、要望として、前向きに計画を立ててやってもらいたい。

16:44

[市長質疑項目の抽出検討]

<菱田委員長>

これから市長質疑項目の抽出検討を行う。市長質疑項目として抽出すべき項目があれば、その項目が掲載されている資料とページ数及び論点を明確にして発言願う。

<田中委員>

13ページ、安全なわが家の耐震化促進事業費について、令和8年度末までに、住宅の耐震化率を95%まで引き上げるとあるが、具体的な年次計画や見込みを明確にしてほしい。

<菱田委員長>

1点提案があったが、ほかにないか。なければこの1点としたいと思うが、担当部長なり課長のほうで、この件について、何か意見はあるか。

<建築住宅課長>

確かにおっしゃるとおり、耐震化率95%に向けて、市の予算措置として20件ではどうなのかということだが、これはあくまでも、市としても耐震化率を引き上げるために、補助金を出しているが、市のほかに民間での新築なども加味されるので、市の20件分だけで到底無理であるということにはならないと考える。

<菱田委員長>

そういった部分を加味して、委員会で提起させていただく。

[まちづくり推進部退室]

～散会 16:49